

① チュニジア



ラクダが運ぶ冷蔵ワクチン

ラクダの背に載っているのは太陽光パネル、脇にくくりつけられているのは冷蔵庫。その中には、なんと薬やワクチンが入っている。医師がラクダを連れて地方の村を訪れるアフリカ式の“動く診療所”だ。

② キルギス



牛ふんが資源に变身!

牧畜業が盛んなキルギスでは、毎日大量に出る牛ふんが大活躍。水と同量ずつ鉄製のタンクに入れて密封・発酵させ、バイオガスを発生させる。この国の貴重なエネルギーだ。

③ ミャンマー



電力の安定は神頼み!?

電力インフラの整備が追いつかないミャンマーでは停電は日常茶飯事。そこで登場するのがこの国ならではの習慣。電力需要が増える夏のピーク時には、発電機が故障しないように毎日神頼み。なんと発電機の横にお供え物が!

④ フィリピン



太陽光発電で漁が可能に

約7,000もの島が点在するフィリピンでは、電力を配るのも一苦労。そこで使われているのが太陽光発電。バッテリーをつないで一日充電すれば、漁に使う集魚灯にも光が。夜の海を照らし、魚を集めるための漁師の必須アイテムだ。

世界のエネルギー裏!? 事情

エネルギーと一言で言っても、その国の気候や地形、資源によってさまざま。世界各地のエネルギー事情をのぞいてみよう。

特集 エネルギー
未来を照らす力

⑤ ナイジェリア



電柱が選挙の道具に!?

畑の真ん中にぽつんと立つ数本の電柱。よく見ると電線がない。選挙前になると、候補者が票集めのために「この村に電気を通しますよ」と電柱を建てるとか。しかし結局、そのまま電気が来ないことも…。

⑥ エジプト



観光産業を支える砂漠の箱

世界屈指の観光地、ギザの三大ピラミッドの砂漠地帯にたたずむ箱。その名も“KIOSK”。中には変圧器などが入っている。地中に埋められた電線の中継点として、ピラミッド周辺の観光施設などに電気を送っている。

⑦ スリランカ

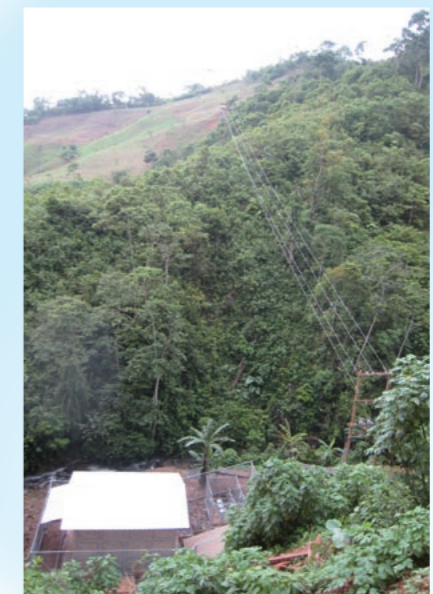


記念硬貨になった友好の証

日本の最先端の建設技術を生かし、2012年に完成したアッパーコトマレ水力発電所。両国の友好のシンボルとして、国交樹立60周年の記念硬貨に。



⑧ グアテマラ



水力発電で森と共存

グアテマラの山岳地域は香辛料カルダモンの産地。しかし、出荷前に大量のまきを燃やして乾燥させるため、森林破壊が進んでいる。そこで、代替のエネルギー源として推進されているのが、山が蓄える豊富な水を使った水力発電。川から取った水に圧力をかけ、タービンを回して発電している。